第16回　リバーカンファレンス総会

日　時　平成4年2月15日（土）
午後2時
会　場　日本歯科大学新潟歯学部
講　堂

一　般　演　題

1）急性肝不全に対するプロスタグランディン，血漿交換併用療法の経験

早津　邦広・内藤　彰
丸山雄一郎・畠山　重秋
阿部　惇・山川　能夫（新潟県立中央病院内科）
斉藤　秀晃
丸山　茂・松井　俊晴
渡辺　渡（同　小児科）

プロスタグランディン E_1（PGE_1）の劇症肝炎に対する有効性が近年報告されている．急性肝炎重症型1例と劇症肝炎1例に血漿交換と PGE_1 を併用し良好な結果を得たので報告する．症例1は38歳男性．急性肝炎の経過中ヘパプラスチンテスト26％と低下した急性肝炎重症型．症例2は13歳の男児．肝性昏睡があり，ヘパプラスチンテスト10％以下の劇症肝炎．症例1に血漿交換，グルカゴン－インスリン療法と，リポ PGE_1 20 μg 連日静注を併用．症例2に血漿交換，グルカゴン－インスリン療法と，PGE_1 500 μg の持続点滴を併用．2例とも順調に回復した．劇症肝炎の治療に PGE_1 の併用は有効と思われた．

2）産科 DIC による急性肝不全の1救命例

加藤　俊幸・沼田　由夏
斉藤　征史・石塚　基成（県立がんセンター新潟病院内科）
丹羽　正之・小越　和栄
金子　亨・高橋　威（同　産婦人科）

症例は35歳女性で妊娠29週の初産婦．1990年3月20日突然の腹痛と腹壁緊張のため緊急入院．胎盤後血腫と常位胎盤早期剝離のため緊急帝切を行ったが，女児は死産．DIC 合併し 4,200 ml 出血．翌21日黄疸とともに昏睡2度となり，また急性腎不全のため透析を開始した．22日には T.B. 7.1 mg/dl, PT 35.9％, GPT 4,430 IU, LDH 28,190 IU，昏睡3度で G-I 療法を開始．25日は T. Bil. 32.8 mg/dl に上昇したため吸着式血漿浄化療法を開始し，計14回施行した．透析と血漿浄化・G-I 療法など速やかな集合的治療が奏功し，妊婦は救命し得た．

本症例は DIC に伴う肝腎不全と考えたが，肝 CT では肝右葉の広範な脂肪沈着と左葉の代償性肥大を認め，妊娠末期の初産婦に生じた急性妊娠脂肪肝が疑われる症例であった．

3）某針灸院を中心に多発したB型急性肝炎例の検討

吉川　明・佐藤　万成
岸　裕・富所　隆（厚生連中央綜合病院内科）
戸枝　一明・杉山　一教

1991年4月から11月にかけて8例のB型急性肝炎例が入院した．内訳は男性2例，女性6例，年齢は30歳～70歳（平均49歳）で，全例長岡市内の某針灸院にて治療を受けていた．全例 HBs 抗原は消失し，キャリア化例はなかった．無黄疸例は1例のみで，2例に G-I 療法を施行した．幸いに劇症化例はなかった．潜伏期を最長6カ月と考えると，1月から5月にかけて順次汚染されたものと推測された．同時期に治療を受けた HBV キャリアの使用針や，今回発症した症例の Viremia の時期に使用した針が不充分な消毒のまま他に使われたものと推測された．近年，B型急性肝炎例が減少しつつある中で，このように多発したことは稀であると思われ，報告した．

4）C型肝炎における血中ウイルスマーカーとインターフェロン療法

新井　太・相川　啓子
豊島　宗厚・曽我　憲二（日本歯科大学新潟歯学部内科）
柴崎　浩一

C型慢性肝炎は経過中に肝硬変や肝細胞癌に進展する危険性が高く，その治療には IFN が有効であることが報告されている．今回我々は，11例の慢性肝疾患に対して，天然型 IFN-α による治療を行い，若干の知見を得たので報告する．

6カ月間の IFN 間歇投与終了時には7例で HCV-RNA が陰性化し，そのうち5例では血清 GPT 値も正常化した．しかし，投与終了後6カ月の時点で HCV-RNA が陰性であったのは2例のみで，陽性化した症例では炎症の再燃が認められた．

今後は副作用および抗 IFN 抗体の出現なども考慮しながら，より効果的な投与方法の検討が必要と考えられる．